

1. 人権が尊重され、誰(だれ)もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はぐく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

彦根市の平成16年度予算 特集

財政緊迫

彦根市の平成16年度予算の概要をお知らせします。

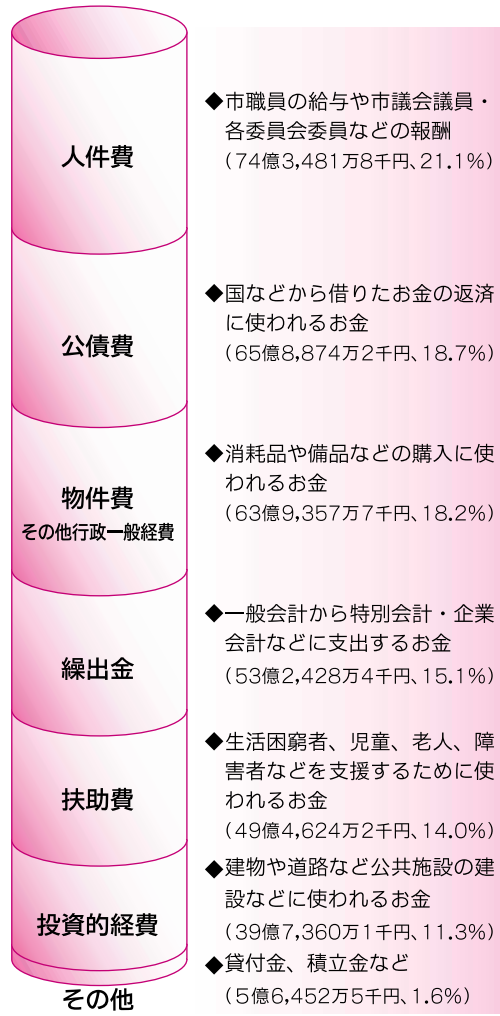
平成16年度の一般会計の予算規模は、昨年度の当初予算と比べると2.9%の増加となっております。これは、今年度に「減税補填債」(約19億7千万円)の借り換えをするためです。減税補填債とは、平成7、8年に実施された減税による収入減を補うために全国の各市町村が借り入れた債務で、当初決められた全国統一のルール通り、いったん全額償還し、新たに同額を借り入れるものです。この分を差し引いた実質的な規模では、前年度の当初予算と比べて約9億7千万円、2.8%の減少となりました。これは、市税収入の伸び悩みや地方交付税など国の財政支援の減少などの影響を受け、総額を抑制した緊縮型の予算となりました。

この特集では、4・5ページには16年度予算のあらましと主な事業の紹介、6・7ページには本市のおかれる厳しい財政状況を、グラフを交えて説明します。

問い合わせ先 財政課(2)1411番
内線422番 FAX(2)1398番

予算総額	787億 989万9千円	(前年度に比べて2.8%増加)
一般会計	352億2,578万9千円	(前年度に比べて2.9%増加)
特別会計	283億6,967万7千円	(前年度に比べて4.6%増加)
企業会計	151億1,443万3千円	(前年度に比べて0.8%減少)

使い方から見た一般会計



特別会計

会計名	予算額	対前年度比
国民健康保険事業	73億4,562万2千円	+5.0%
観光事業	2億5,606万7千円	-29.9%
住宅新築ならびに改修資金貸付事業	7,544万 千円	-5.5%
有線放送電話事業	5,949万2千円	+376.0%
下水道事業	82億6,944万 千円	+0.4%
休日急病診療所事業	5,486万 千円	+0.9%
老人保健事業	75億3,004万7千円	+3.4%
農業集落排水事業	3億1,706万8千円	+1.2%
介護保険事業	44億6,164万1千円	+17.6%

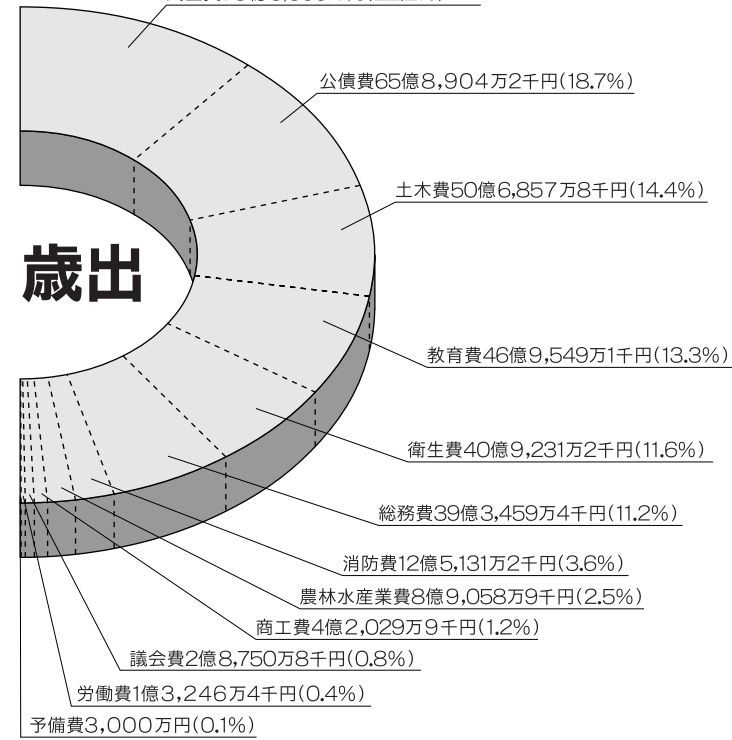
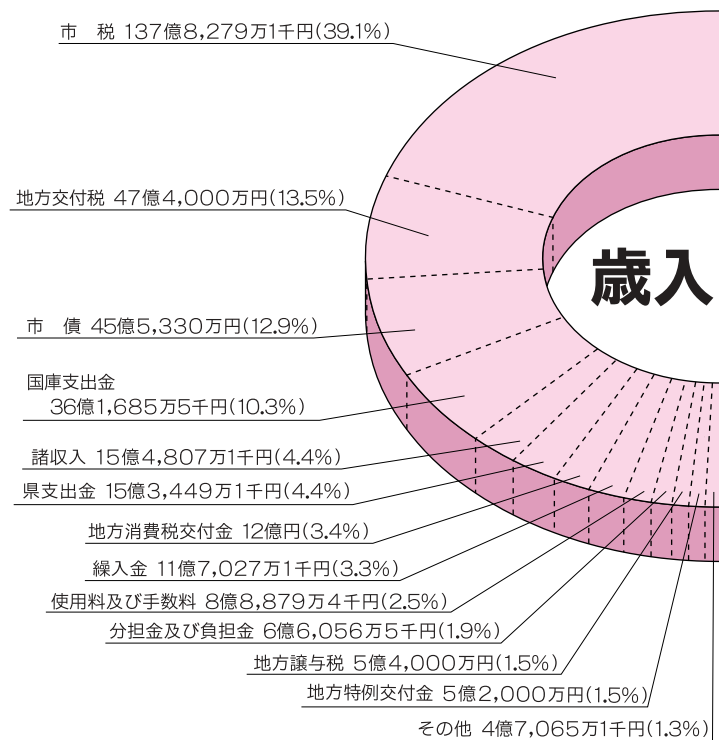
企業会計

会計名	予算額	対前年度比
病院事業	110億7,000万9千円	+2.9%
水道事業	40億4,442万4千円	-9.7%

用語の説明(歳入)

- 市税：皆さんから市に納めていただく税金
- 地方交付税：所得税など国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて国から交付されるお金
- 市債：大きな事業を行うために国などから借り入れるお金
- 《平成16年度末残高見込額430億4,518万6千円》
- 国庫支出金・県支出金：特定の目的の財源として国・県から交付されるお金(補助金など)
- 諸収入：他の収入科目に含まれない収入(消防の受託事業収入など)
- 地方消費税交付金：国が徴収した消費税の一部から市へ交付されるお金
- 繰入金：特定の目的のために積み立てているお金を取り崩して使うお金
- 使用料及び手数料：施設の使用時や住民票などの証明書の交付時などに皆さんが納めるお金
- 分担金及び負担金：市が行う事業によって特に利益を受ける人や団体が納めるお金
- 地方譲与税：国が国税として徴収した税金のうち、地方に配分されるお金
- 地方特例交付金：減税の影響を補うため国から交付されるお金

一般会計



用語の説明(歳出)

- 民生費：福祉や医療の充実などのために使われるお金
- 公債費：大きな事業を行うために国などから借りたお金の返済に使われるお金
- 土木費：道路や橋、公園などの施設整備に使われるお金
- 教育費：小・中学校などの教育や文化、スポーツの振興のために使われるお金
- 衛生費：健康診断や予防接種、ごみの収集・処理などに使われるお金
- 総務費：市税、選挙、戸籍の事務や、市政の推進を図る計画を作るために使われるお金
- 消防費：市民の安全を守るため、消防や防災対策に使われるお金
- 農林水産業費：農林水産業の振興のために使われるお金
- 商工費：商工業や観光の振興のために使われるお金
- 議会費：市議会を運営するために使われるお金
- 労働費：働く人たちの福祉などのために使われるお金
- 予備費：緊急の支出などに備えるお金

次世代育成対策に重点

道路整備などは抑制

平成16年度の予算編成にあたっては、厳しい財政状況のなか、思い切った事務事業の見直しと、経費の抑制に努めつつ、総合発展計画「ひこね21世紀創造プラン」に掲げる

をするためにコーディネーターを配置します。

将来都市像「市民がつくる 安心と躍動のまち 彦根」の実現に向け5つの基本方針のもと、可能な限り時代の要請に

さらに、次年度以降の本市の次世代対策の総合的な計画となる「次世代育成支援行動計画」を本年度中に策定します。

また、次世代対策を重点施策として位置付け、地域における子育て支援や、子どもの健やかな成長に資する教育環境の整備、乳児や幼児等の健康の確保・増進を旨し各種事業に取り組みます。

また、非行少年等の立ち直りを支援する「青少年支援センター事業」などを実施し、青少年一人ひとりに向き合ったきめ細やかな対応を行います。

また、土木費が前年度と比べて約15億円、23%の減少となるなど、道路や下水道事業、区画整理事業では、思い切った進捗調整を行いました。今後もあらゆる事業において、廃止や中止、縮減などを含めて見直しを進める必要があることから、「経営改革推進室」を設置し、事業の見直しや新たな行政課題への対応に取り組んでいきます。

また、土木費が前年度と比べて約15億円、23%の減少となるなど、道路や下水道事業、区画整理事業では、思い切った進捗調整を行いました。今後もあらゆる事業において、廃止や中止、縮減などを含めて見直しを進める必要があることから、「経営改革推進室」を設置し、事業の見直しや新たな行政課題への対応に取り組んでいきます。



具体的には、多様な子育て支援サービスに関する情報を一元的に把握し、提供する「子育て支援基盤整備事業」を実施し、効果的な情報提供

また、土木費が前年度と比べて約15億円、23%の減少となるなど、道路や下水道事業、区画整理事業では、思い切った進捗調整を行いました。今後もあらゆる事業において、廃止や中止、縮減などを含めて見直しを進める必要があることから、「経営改革推進室」を設置し、事業の見直しや新たな行政課題への対応に取り組んでいきます。

新規・主要事業とその予算額の概要

人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり

男女共同参画センター管理運営事業	1,503万2千円	高齢者福祉事業関係	44億7,615万2千円
市民人権啓発推進事業	1,493万6千円	老人クラブ活性化事業	
広野会館建設事業	1,000万円	介護予防推進事業	
あったかファミリーステーション整備運営事業	300万円	介護保険基盤整備事業	
彦根市民支え愛大学事業	38万8千円	介護保険事業	
コミュニケーション確保対策事業	78万円	障害者福祉事業関係	6億4,386万8千円
生活保護システム更新事業	1,109万4千円	障害児サマーホリデーサービス事業	
子育て支援基盤整備事業	507万5千円	身体障害者支援費支給事業	
次世代育成支援行動計画策定事業	356万8千円	知的障害者支援費支給事業	
児童福祉事業関係	14億8,244万3千円	障害児福祉対策事業	
留守家庭児童会運営事業		療育・精神発達相談事業	204万6千円
民間保育所施設整備事業		がん健診事業	2,982万3千円
保育所運営および児童保護措置事業		国保保健指導事業	174万円
中高年齢者保育サポーターによる保育環境改善事業		休日急病診療所事業	5,446万円
地域子育て支援センター事業（ふたば保育園）		病院管理運営事業	3億4,649万1千円

良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり

環境マネジメントシステム構築事業	245万2千円	特定優良賃貸住宅供給促進事業	504万8千円
ペットボトル収集事業	2,288万8千円	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業	5,596万9千円
プラスチック製容器包装分別処理事業	6,883万7千円	れきし・みち修景事業	200万円
駅舎バリアフリー化促進事業	300万円	バリアフリー施設整備事業	1,180万円
JR新幹線側道管理事業	979万4千円	猿ヶ瀬川河川改良事業	1億216万円
亀山出張所整備事業	780万円	都市計画道路整備事業	2億5,440万円
防災体制整備事業	1,161万4千円	都市計画公園整備事業	5,397万2千円
稲枝東警察官駐在所用地取得事業	1,778万5千円	彦根駅東地区高次都市施設整備事業(自由通路)	5,100万円
地域自主防犯活動支援事業	80万円	公共下水道事業	39億6,038万2千円
高齢者住宅小規模改造助成事業	1,883万円	消防体制の整備、充実	5,426万2千円
障害者住環境整備推進事業	563万8千円	車両整備事業	
既存建築物耐震診断事業	184万5千円	消防水利整備事業	

活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり

集落営農ステップアップ促進事業	50万円	新海浜水泳場運営事業	250万円
近江米ブランド確立実践事業	191万8千円	小江戸彦根の城まつり事業	1,020万2千円
中小小売商業対策事業	1,445万5千円	路線バス対策事業	7,335万3千円
金融対策事業	1億3,759万4千円	道路新設改良事業	2億1,886万2千円
中小企業近代化高度化対策事業	1,691万9千円	交通安全施設整備事業	1,295万円
中心市街地活性化対策事業	490万6千円	まちづくり総合支援事業	3,600万円
工場設置奨励事業	1,842万4千円	本町地区街なか再生土地区画整理事業	1億6,013万9千円
緊急雇用対策彦根市住宅リフォーム促進事業	2,007万3千円	彦根駅東土地区画整理事業	6億9,281万9千円
ファミリー・サポート・センター運営事業	625万4千円	彦根駅東地区地方道整備事業	1,200万円

明日の彦根市を担う人を育むまちづくり

教育施設等の整備	10億6,214万3千円	中学校スクールランチ事業	1,457万円
旭森小学校校舎整備事業		家庭教育支援事業	221万1千円
城西小学校水泳プール整備事業		特別支援教育専門家チーム設置事業	35万3千円
城南小学校耐震補強事業		児童生徒自立支援事業	340万円
金城小学校耐震補強事業		生徒指導ハートフルサポート事業	1,684万7千円
佐和山小学校耐震補強事業		(市立図書館)図書資料の整備・充実事業	2,067万9千円
小学校耐震診断事業		(市立図書館)遊及データ入力業務	1,940万8千円
3歳児保育体制整備事業	260万円	彦根熱中塾事業	95万7千円
私立幼稚園保育料補助事業	2,263万8千円	自然・人・文化を活かした体験塾事業	704万円
体験の学習推進事業	653万5千円	地域子ども教室推進事業	5万5千円
中学校運動部活動外部指導者派遣事業	98万1千円	青少年支援センター設置事業	532万4千円

人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

彦根市史編さん事業	4,225万5千円	彦根市学区スポーツ促進・交流事業	335万6千円
舟橋聖一生涯100年記念事業	323万2千円	スポーツ少年団育成事業	184万5千円
博物館テーマ展Ⅱ開催事業	254万9千円	彦根シティマラソン開催事業	230万円
旧彦根藩松原下屋敷庭園保存推進事業	3,341万7千円	中国湘潭市交流事業	112万1千円
特別史跡等整備受託事業	1,966万4千円	友好都市研修生受入事業	371万4千円
旧市立病院看護婦宿舍跡地取得事業 (債務負担行為限度額)	1億3,306万9千円	多文化共生社会推進事業	52万6千円

こうしたなかで、事務の簡素化や

どの貯金から繰り入れて対応してきました。ところが、これらの基金も平成13年度から取り崩しが続いたことから、残高が減少してきています。(グラフ3)このまま取り崩しが続けば、数年後には底をついてしまう状況です。

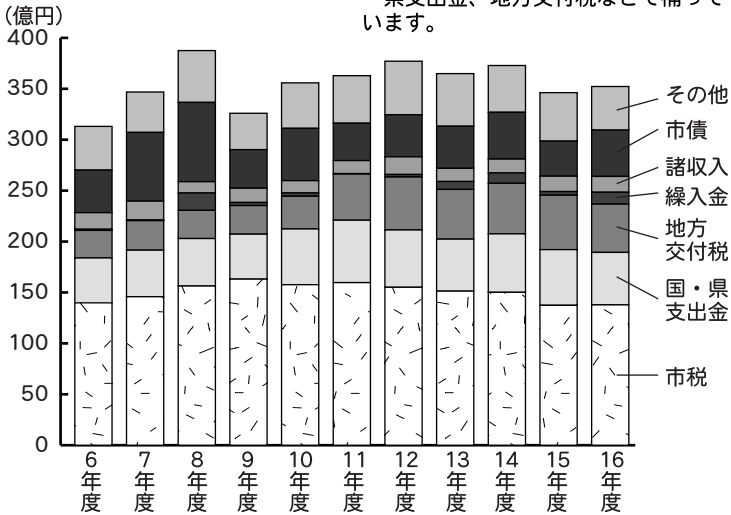
公共工事の効率化によるコストの削減のほか、補助金の見直し、手数料・使用料等の見直しなどを実施して財政基盤の強化に取り組んでいます。しかし、近年の地方財政を取り巻く情勢の変化は、予想を超える大きなうねりであり、これまでの取り組みだけでは、この厳しい状況を乗り切ることは難しくなっています。

16年度予算の編成にあたっては、これまでの取り組みに加え、一部の事業について、事業の進捗調整を行いました。今後の財政事情を考えますと、さらに歳出の抑制に努める必要があります。

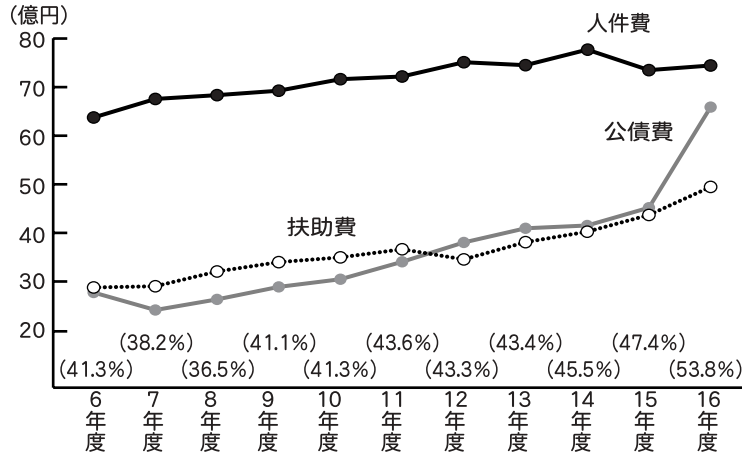
そのため、今後の市政運営にあたっては、市民の皆さんと行政との役割分担をより明確にしていく必要が

あります。また、あらゆる事業について廃止・中止・縮減などを含めて検討するとともに、行政組織や職員数の見直しを図ることも必要です。非常に厳しい財政状況は今後も続くと思っており、市民の皆さんのニーズにすべてお応えすることは困難になっていきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

グラフ1 歳入の内訳の推移



グラフ2 義務的経費の推移 (数値は、一般会計全体に対する義務的経費の割合)



これらの経費は義務的経費と呼ばれるようになっていきました。これまでの経費は義務的経費と呼ばれていました。人件費は年度ごとの増減はあるものの、ほぼ同じ水準で推移していますが、扶助費と公債費は増加傾向にあり、特に公債費については、この10年の間に約2倍に増加しています。今年度の予算では、これらの経費が歳出全体の53・8%を占めるまでになっています。

「財政調整基金」や「減債基金」な金が少ないことになり、市税が伸び悩み、国からの財政的な支援が縮小するなかで、義務的な経費が増加を続けるという収入と支出の状況から、今後さらに財源不足が深刻化すると予想されます。これまでの、財源が不足すると、「財政調整基金」や「減債基金」な

グラフで見る

彦根市の財政状況

彦根市の平成16年度予算の概要についてお知らせしましたが、今年度予算の編成は、本市の財政を取り巻く状況の影響で、これまでにない厳しいものとなりました。

景気は、企業の収益や設備投資が緩やかな改善傾向にあるなど、一部

で持ち直しの動きが見られるものの、個人消費はおおむね横ばいで依然として厳しい状況です。こうした状況は市税収入に影響し、今年度の市税収入の見込みは、過去10年で最も多かった平成9年度と比べて約25億円の減収となりました。(グラフ1)

グラフ3 基金(貯金)の残高

